

# 行政視察報告

## 総務委員会

十月三～五日に、福井県敦賀市、越前市の研修を行った。敦賀市での自主防災組織は、阪神大震災を契機に地域での助け合いの重要性が認識され、その後の結成率は現在六一％である。

助成制度も充実しており、設立補助・運営・防災機材倉庫設置補助・倉庫用地貸与等があり参考になった。災害時要支援者支援マニュアルは、作成中であるが、個人情報保護や地域支援者の確保ができていくとのことであった。

また、防災情報を携帯電話に送信する事業を行っており、登録者数二、三五〇であり、高齢者・障害者対象の電話・ファックスによる情報発信も行われており、参考になった。

男女共同参画は、平成十一年に国会で男女共同参画社会基本法が制定されて、公民館学習や議会でも取り上げられ、その後、着実に推進されて十五年に条例を制定、十七年都

市宣言をし現在に至っている。

基本理念として、『人権の尊重』を掲げ、男性も女性も、家族の一員として対等な立場でともに責任を分かち合う家庭生活をめざし、それを土台に男女が同等の立場であらゆる分野に参画し、共に能力を十分に発揮できる社会の実現をめざす。

その方策として五つの基本目標を決め、具体的に施策として実行されており、十七年度は、着手項目数九六、決算額八億七百万円であった。これまででの取組で成果も上がっており、より効果的な推進のために施策の見直しをしている。



越前市男女共同参画都市宣言

越前市では、自主防災組織の結成率は九三％の高率であるが、全域での結成をめざしている。また市内十七地区に設立された自治振興会では、

安全防災部で総合防災訓練、防犯マップの作成、子供の安全安心見守り隊の事業を行っており、参考になった。

また、市内のベンチャー企業や中小企業者が開発した新商品の中で必要なものを市みずから購入し、企業の信用力を高めることで販路開拓を支援する制度があり、多数の応募があった。

## 産業建設委員会

十月三十日～十一月一日に、京都府綾部市、福井県小浜市の研修を行った。

綾部市は広大な市域と恵まれた多くの自然環境を保全し、この潜在的な財産をこれからの時代における地域開発の原動力とするため、知識や情報人口のネットワークを結集した組織の形成を目指して「里山ねつと・あやべ」を設立。人と自然に与えられた舞台としての里山空間が持っている「里山力」、「ソフト力」、



キッズ・ジュニアキッチン

「人材力」に支えられて活動を始めた。当初の活動は、「里山塾」を中心に酪農体験や豆腐手づくり体験などを通じて、都市と農村の交流促進を行った。

以降、「里山ねつと通信」を発行するなど広く情報発信を手がけながら、「森林ボランティア」活動や「田舎暮らし初級ツアー」、「とよさと石窯ゆめ工房」農業体験プログラムとして「里山そば塾」、「米作り塾」、「茶摘み体験」などを行い新たな「あやべファン」の拡大につながった。小浜市では「食のまちづくり」を視察した。小浜市は、食のまちづくりプロジェクトチーム発足後食のまちづくり条例制定など拠

点施設として、※御食国若狭おぼま食文化館内でキッズ・キッチンを開始し、特に小学生版の「キッズ・ジュニアキッチン」では、料理を通じて集中力や達成感、満足感を育み、地場の魚の調理も教室に取り入れ、食は他の命をいただくことにより、人の命の尊さや命の大切さや、感謝の気持ち<sup>みづか</sup>が育った。

また、※スローフードレストラン「濱の四季」では、地場産のものを使って調理し、地元の人や観光客へ提供するなど好評であった。

小浜市は「食文化都市」を宣言し、その中の一つに、※身土不二<sup>みんどふじ</sup>に基づき地産地消に心がけ、地域の食材を尊重して、健康を図るなど、食のまちづくり基本計画策定し、まちづくりを進めていた。

※御食国<sup>みつけくに</sup>・・・美しい自然の中で得られる海山の幸・清水等を朝廷に献納してきた国(県)  
※スローフード・・・伝承料理や郷土料理  
※身土不二<sup>みんどふじ</sup>・・・人と土は一体であり、人の命と健康は食べ物で支えられ、食べ物<sup>もの</sup>は土が育てる